

2023 年度 FD 活動評価点検報告書

1. 中部大学の FD 活動組織について

本学における教育活動・改善に向けた教員の資質向上策としての FD (Faculty Development) 活動は、図 1 のように、学長を委員長とした全学 FD・SD 委員会のもと、各学部 FD 委員会および各学科組織があり、全学体制の FD 活動ワーキングが中心となって種々の検討を行っている。また、教育活動顕彰審査選考委員会や FD 活動評価点検委員会が組織されており、FD 活動の内容について評価できる体制が整っている。なお、全学 FD・SD 委員会および学部 FD 委員会は、2007 年度まで本学に設置されていた FD 推進委員会および学部での FD に関する諸活動をそれぞれ 2008 年度より新しく改変した組織である。また、主管部署として、大学企画室高等教育推進部（教員 3 人、事務員 3 人で構成）が FD 活動の推進・支援を行っている。

さらに、「大学設置基準等の一部を改正する省令」が 2017 年 4 月 1 日から施行され、SD (Staff Development) が義務化されたことを受けて、本学の教員・職員のキャリア形成を図る組織的な取り組みを推進するため、2019 年度に全学 FD 委員会を全学 FD・SD 委員会に再編し、その専門委員会として SD 活動 WG を新たに設置した。全学 FD・SD 委員会により企画・開催される FD プログラムは、大学教育を支援する職員の SD プログラムとしても機能しており、職員も教員と共に参加することで自らの職務遂行上の資質向上に役立てている。

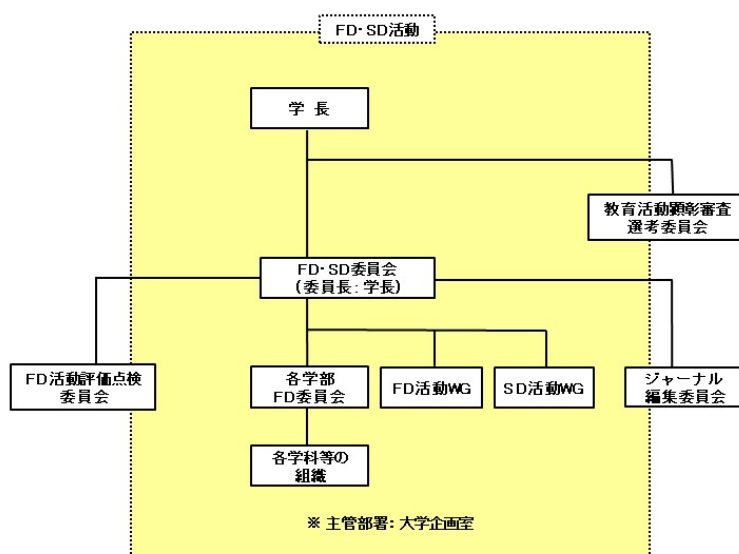


図 1 中部大学の FD・SD 活動組織図

FD・SD 委員会：本学の FD・SD 活動全般について、学長を委員長として審議、検討をする。

FD 活動 WG：FD・SD 委員会の専門委員会として、学部代表の FD 委員を中心に主に全学的な活動を企画する。

SD 活動 WG：FD・SD 委員会の専門委員会として、SD 活動の全学的な推進を図る。

FD 活動評価点検委員会：本学の FD 活動全般について、第三者的な立場にたって評価点検をする。

教育活動顕彰審査選考委員会：教育活動顕彰制度に係る重要事項、および受賞者の審査、選考する。

ジャーナル編集委員会：FD・SD 委員会の専門委員会として、高等教育（大学教育）全般に関する研究成果、および本学での教育に関する分析研究、実践報告等を学内外に発表するために『中部大学教育研究』を発行する。

2. 本学の FD 活動評価点検の対象

本学の FD 活動は、次の表に示すように 3 つの観点から分けられる。広義の FD 活動の目的となりうる「カリキュラム改善」や「組織の整備・改革」に関する諸活動は、FD・SD 委員会の所掌事項でないため、これらを目的とした活動（網掛け部）は、本報告書の内容には含めていない。なお、授業担当者のみの授業改善の活動は、「教員活動重点目標・自己評価シート」と「学生による授業評価、教員による授業自己評価」によって実施され、後者は学内向けにホームページ上で公開されている。

表 1 3 つの観点でみた中部大学の FD 活動

【※1】 3 つの観点でみた中部大学の FD 活動（網掛け項目は除外する項目を表す）

目的別にみた FD 活動	対象別にみた FD 活動	形式別にみた FD 活動
1) 授業・教授法の改善	1) 全学対象	1) 会議 (*2)
2) 教員の資質向上（研究交流を含む）	2) 学部・研究科対象	2) 講演・報告会形式
3) FD 活動の企画・運営など	3) 学科・教育科対象	3) ワークショップ形式 (*3)
カリキュラム改善	(*1) 非常勤講師を含む	4) 制度・システムの構築や改良、出版など (*4)
組織の整備・改革	(*1) 学生を含む	
	授業担当者	

(*1)：対象別分類の 1)～3)の活動の中で、非常勤講師を含む、学生を含む場合

(*2)：形式別分類の 1) 会議は、複数担当者による授業科目の内容等に関する打ち合わせ等は含めない。

(*3)：形式別分類の 3) ワークショップ形式の活動の中には、懇談会・相談会等の双方向型の活動を含む。

(*4)：授業評価システム、授業改善アンケートの制度の運用やシステムの構築や改良、および出版などが該当

3. 2023 年度の FD 活動の重点目標

FD 活動の重点目標を『魅力ある授業づくり』とすることが 2008 年度の FD 委員会で決定された。以降現在に至るまで、これを重点目標に掲げ、以下の考え方をもとに FD 活動を進めてきた。

『魅力ある授業づくり』は、学生と教員が協同して行うものです。

魅力ある授業・・・（学生にとって）興味を持って聴ける授業、将来において役立つ授業
（教員にとって）学生の成長を実感できる授業、学生から感化を受ける授業
授業づくり・・・（学生が目指す）自主的に学ぶ態度、知識・技術の修得
（教員が目指す）授業改善、授業スキルアップ
（学生と教員が目指す）双方向のコミュニケーション

本学では、評価点検の結果から改善を繰り返し、個人レベルから、学部学科を越えたグループ、学部学科、全学を対象に活発な FD 活動を進めてきた。こうした中、教育実践現場である各学部では、以下のような FD 活動の目標設定を行い、FD 活動に積極的に取り組んだ。

(1) 工学部・工学研究科

FD・SD 講演会、FD フォーラム、FD カフェ等に積極的に参加し、『魅力ある授業づくり』を理解し着実に実行するための組織的サポートを行う。

1) 「中部大学教育活動顕彰制度 受賞者による講演会」を開催し、受賞者より『魅力ある授業

づくり』について講演頂き、各教員の『魅力ある授業づくり』の一助とする。

- 2) 『魅力ある授業づくり』に相応しい話題を見つけ、工学部 FD 講演会として随時開催する。
- 3) 全学公開授業、授業サロン、FD カフェ、キャリアアッププログラムなど、学内で開催されるセミナー等への参加を強く推奨し、工学部内での情報共有を図り、各教員の『魅力ある授業づくり』の一助とする。
- 4) 遠隔授業に関する技術的サポートのための情報収集を行う。また、場合によっては、技術指導のための講演会、工学部 FD 委員会委員から学科内への展開を通じて、情報共有を行う。
- 5) 「CU ルーブリックライブラリ」「Cumoc」を積極的に活用し、授業に反映させ『魅力ある授業づくり』に努める。

(2) 経営情報学部・経営情報学研究科

1) 『魅力ある授業づくり』に関する目標

①全学 FD 活動への参加の勧奨

『魅力ある授業づくり』に関して、全学レベルの FD 活動（FD 講演会、授業サロン、全学公開授業など）への学部教員の参加を勧奨する。

②授業改善活動の推進

- ・初年次教育の経験交流会の実施を継続して、スタートアップセミナーの授業実施にかかわる意見交換と情報共有をすすめる。
- ・教員の教育能力向上に資するため、教育活動顕彰制度表彰受賞者による講演会などの学部 FD 活動の実施を検討する。
- ・学生の授業評価、教員の授業評価やコメントへの回答の回答率を向上させる取組みを行うと共に、教員は授業評価をもとに各自、授業改善に務める。
- ・授業における ICT 活用を推進するため、リモート授業の質向上、タブレット教育推進などに関する勉強会等を実施する。

③学生指導の対応力向上と仕組みの構築

- ・配慮を必要とする学生についての教員間の情報共有ならびに支援のあり方について検討をすすめる。
- ・学部独自の学生支援体制の構築・改善をすすめる。

2) 学部 FD 講演会の実施

- ・学部教育能力向上を目的に外部講師を招いての講演会を実施する（学部教員の ICT 活用能力向上など）。
- ・教員の資質向上を目的に外部講師を招いての講演会を実施する（ハラスメントの防止・対策など）。

3) 産業経済研究所と連携した FD 活動

研究の情報交換、共同研究のネットワークづくり、研究のブラッシュアップの場として、外部講師による講演会を実施し、教員の資質向上に努める。

4) (大学院) 学生の授業評価に基づいた授業内容の改善

授業アンケートにより得られた学生からの意見を共有し、授業内容の改善及び大学院教育の充実に務める。

(3) 国際関係学部

1) 授業・教授法の改善

- ①学生と教員が協働して創出する新しいスタイルの授業「ハイブリッド・プロジェクト」にお

いて、学生の最新学修ニーズを確認後、学部構成員による情報共有を推進し、他授業科目にもフィードバックすることで、専任教員が担当する授業の質の更なる向上を目指す。

②低学年向け演習系科目に関しては、学年・学期ごとに「コーディネーター」を配置し、授業前後の検討を担当者全員で行い、学生の学習状況把握に努める。また自己点検・評価の実施時には成績評価の基準や改善点を担当者間で共有し、学部全体でエビデンスを活用する。レポート等の成果物を学部の Web ポートフォリオで受け付ける機会を増やし、学生が主体的に学修状況を把握できるよう指導する。

③「卒業研究」については、2022 年度に制作したループリックライブラリを、「卒論中間発表会」の実施や「優秀卒業論文賞」の選考過程において活用し、指導法や論文内容の改善を図る。

2) 研究力の充実による FD の活性化

日本で 2 番目に創設された国際系学部である本学部は、多様な地域や学問分野を学ぶことができ、面倒見の良い指導や就職率の高さなどから在学生の満足度は高く、兄弟姉妹で入学する例も少なくない。ただし今日では類似の学部学科が近隣に増え、受験生への認知度が高いとは必ずしも言えない状況にある。ついてはそうした状況を改善するためにも、以下の試みから学部の研究力を高め、FD を活性化したい。

①20 号館 1 階の「グローバルフォレスト」等を活用し、教員による教育、研究、語学、多文化共生に関わるセミナーやイベントを実施する。学部の教職員や学生はもちろんのこと、全学にも公開して聴衆からフィードバックを受けた結果を国際関係学部の授業内容に反映させるとともに、ネットでの発信を通じた口コミの増加などにつなげる。

②学部学科のホームページに教員の研究や教育に関する情報をより効果的な形で掲載し、外部に対する発信力を高めるとともに、各教員が自らの授業内容や方法を振り返り、向上させる一助とする。また、引き続き教員の心身の健全に留意し、ワークライフバランスを実現すべく、管理運営業務の可視化と教員間の分担・協力、学内で開催されるハラスメント防止講習会等への参加を進め、『魅力ある授業づくり』に資する研究時間の確保に努め、研究力を高める。

③本学部が学内のハブを担ってきた ESD/SDGs 教育に関しては、2022 年度に大学全体を横断する SDGs 学際専攻がスタートしたことで一つの大きな節目を迎えた。同教育は付属校との高大連携や地域社会との結びつきを深める上でも有効な手段となり得るが、今後は国際関係学部の多彩な研究者が有する海外の知見や実践力を活かし、より学問的な見地からの貢献を目指したい。一例として、2024 年 10 月のオープンを目指して愛知県が進める STATION AI プロジェクトにおいては、ESD/SDGs の理念も活かしつつ、地域・世界・大学の連携による様々な社会問題の解決に向けた政策等の創出が見込まれており、尾張地域唯一の総合大学として参加が決定している。そうした拠点での活動に関係の深い本学部の教員が参加や協力をし、学問の発信を通じて地域社会における存在感を高め、ひいてはそこで得た知見を学部にフィードバックし、授業内容や方法の改善・充実に活かしたい。

(4) 人文学部

1) FD・SD 活動の目標

人文学部では各学科の特性を生かしつつ、複雑化する現代社会の課題に応えることのできる「確かな学力」と「コミュニケーション能力」を兼ね備えた「あてにされる人間」の育成を目標とする。学生には学内および課外活動を通じて人と積極的に関わることで多様な視点を獲得し、主体的に考え行動できる力を身に付けさせる。また教員・学生間のハラスメントや合理的

配慮についての認識を深めていく。

- ①高校と大学との連携を強化し、スムーズに大学教育への移行を図る。
- ②学生の主体性を育成するための魅力ある授業づくりの実現に向けて取り組む。
- ③学生と教員によるフィールドスタディを通じて春日井市を中心とした地域社会との連携を強化する。
- ④2023年度から人文学部が独自に始動する「学部内学科横断プログラムクロスオーバーSDGsプロジェクト」「7学部間横断プログラム副専攻」等を含むSDGs教育の導入及び「人間力を育成する学問の総合化」を目指す新教育プログラムの実現化に取り組む。
- ⑤教員・学生間のハラスメント問題、および合理的配慮の提供に関する認識の強化を図る。

2) FD・SD活動の計画

- ①各教員が学生ポートフォリオの活用をとおして日々の学習態度に関する情報を共有し、学力向上・維持に向けた意見交換を図る。併設校を中心とした高大連携の強化および各学科にて初年次教育を細やかに実践し、かつ独自のピアサポーター制度を活用することにより、恵那研修等の行事をとおして1年次から自己の将来像を意識させることに取り組む。
- ②『魅力ある授業づくり』に関し、学生・教員の「授業評価」への参加を向上させ自己の授業改善に努める。秋学期には、教育活動顕彰制度で表彰された教員の報告会を行い、意見交換を図る。
- ③自己点検・評価における全学的課題のうちの「シラバスと講義内容との整合性の検証」について、各学科で検証方法、および問題があった場合の対応方法を確立し、実施する。
- ④自己点検・評価における全学的課題のうちの「内部質保証体制の充実」について、毎年の自己点検・評価の書類を提出する前に学科間で客観的視点からチェックし合い、要改善点等の認識も織り込んで提出するようにする。
- ⑤従来の講義形式と学生に能動的な学修を求める参加型学習法である双方向型授業を組み合わせた授業や学科横断的な授業に取り組むこと。加えて必要に応じたオンデマンド授業の充実化を図るための情報交換を行う。
- ⑥学部所属教員全体に本学部および本学のFD・SD初年次教育関連の講演会・セミナー・研修会への積極的な参加を促す（新任教員の授業支援を図る）。
- ⑦障害者差別解消法及び改正障害者差別解消法による、不当な差別的取扱いの禁止及び合理的配慮の不提供の禁止が法的に義務化されるのに伴う情報共有や各種対応の検討を行う。

3) FD・SD活動の実践に向けて

魅力ある授業づくりとは、「学生と教員が協同して行うもの」である。学生に興味を湧かせ将来役に立つ授業および教員にとって学生の成長を実感し、常に学生から感化を受ける授業を意識しながら、学生との日頃のコミュニケーションに基づき、学生にとってわかりやすい魅力ある授業づくりを推し進め、学部全教員はそれを実現できるようにFD・SD活動を行う。

(5) 応用生物学部・応用生物学研究科

1) 応用生物学部FD推進委員会

○委員会の開催

定期的に委員会を開催し、2022年度FD活動の評価点検、2023年度目標達成への活動推進、2024年度の活動目標の設定を行うほか、必要時にはメールにて審議・連絡を行う。

2) 学部FD活動目標・計画

- ①『魅力ある授業づくり』に関して、授業改善につながる学部内の報告会や意見交換会を計画する。特に、教育活動優秀賞を受賞した教員をパネラーとした討論の場を設け、授業改善に

向けた情報共有を行う。

- ②『魅力ある授業づくり』に関して、学生による授業評価、教員による授業評価、およびコメントへの回答の回収率向上を具体的目標として学部全体で継続し、取り組む。
- ③『魅力ある授業づくり』に関して、各教員の授業改善に関する重点目標、および授業評価コメント一覧の良かったところ、改善点等を参考とし、自己の授業改善に努める。
- ④学部 FD 講演会を開催する。多様化する学生を支えるため、学生サポートや授業改善、ICT活用に関する講演会や意見交換会を開催し、各教員のスキルアップを目指す。
- ⑤各教員は、全学 FD 講演会その他の全学レベルの FD 支援活動に積極的に参加する。

3) 各学科（専攻）、研究科における FD 活動目標

学科会議、研究科委員会などを通して定期的に FD 情報（教務モニター、授業アンケートなど学生の意見、FD 講演会その他の内容等）の交換・共有を行い、必要に応じ目標設定を行う。

(6) 生命健康科学部・生命健康科学研究科

- ①〔学部〕春学期中に授業検討会を行い、学部の共通の課題を議論すると共に、学生にとって有用な魅力ある授業となるように課題解決を目指す。
- ②〔学部〕実習科目、演習科目については可能な限りルーブリック評価の導入を目標にする。
- ③〔学部〕各学科の特色をより活かした教育につながる FD 活動もあわせて実施する。
- ④〔大学院〕大学院特論等において、授業評価アンケートを実施し、その結果を担当教員で共有することにより授業改善に役立てる。
- ⑤〔大学院〕大学院担当教員は学部教員とほぼ重複するため、学部における FD 活動内容を共有して大学院教育に活かす。
- ⑥〔大学院〕パンフレット「研究の心得」を活用し、より一層の教育・研究の内容を高める。
- ⑦ 秋学期の終了時に、学部・研究科教員全員を対象にした『魅力ある授業づくり』につながる FD 講演会（研修会）を計画する。

(7) 現代教育学部・教育学研究科

1) FD 活動の目標

①現代教育学部

- ・教員の『魅力ある授業づくり』のための力量向上
- ・現代教育学部における現状と課題についての共有
- ・新しい大学教育、特にカリキュラム開発の研究を他学部との交流を含めて探究する。

②大学院教育学研究科

- ・学部、現代教育学研究所と連携した授業改善と大学院教員の資質の向上
- ・他大学・他学部との研究交流の実施による教育・研究の創発
- ・共同研究と外部資金獲得の試み

2) FD 活動計画

①現代教育学部

- ・現代教育学部の教育研究に関する新たな試みを模索する。そのために、FD&SD 講演会を開催し、互いの研究内容を把握して、今後の研究交流の方針を定める。
- ・現代教育学部および大学院の教員の教育・研究のポテンシャルを高め、『魅力ある授業づくり』のための力量向上を目指して、学内外からの講師を招聘し、年度内に数回の FD&SD 活動を実施する。

②教育学研究科

- ・教育学研究科として、研究・教育の一層の発展を目指すために、現代教育学部において実施される FD&SD 活動と連携し、FD&SD 講演会を共催するとともに、研究科が主催して FD&SD 講演会を実施し、構成員の教育・研究活動の推進を図る。

(8) 理工学部

FD 講演会、FD フォーラム、FD カフェ等に積極的に参加し、『魅力ある授業づくり』を理解し着実に実行するための組織的サポートを行う。

- 1) 「中部大学教育活動顕彰制度 受賞者による講演会」を開催し、受賞者より「魅力ある授業づくり」について講演頂き、各教員の『魅力ある授業づくり』の一助とする。
- 2) 『魅力ある授業づくり』に相応しい話題を見つけ、理工学部 FD 講演会として随時開催する。
- 3) 全学公開授業、授業サロン、FD カフェ、キャリアアッププログラムなど、学内で開催されるセミナー等への参加を強く推奨し、理工学部内での情報共有を図り、各教員の「魅力ある授業づくり」の一助とする。
- 4) 遠隔授業に関する技術的サポートのための情報収集を行う。また、場合によっては、技術指導のための講演会、理工学部 FD 委員会委員から学科内への展開を通じて、情報共有を行う。
- 5) 「CU ルーブリックライブラリ」「Cumoc」を積極的に活用し、授業に反映させ『魅力ある授業づくり』に努める。

(9) 人間力創成教育院

人間力創成教育院設置の理念の下、教育院の FD 活動の継続的推進を図る。EP を越えた FD 活動はどのようにあるべきかについても議論し、各 EP が担当する科目の教育内容・教育理念に関して、懇談会・研修会を通して教員間の共通理解の形成を図る。さらに魅力ある授業づくり等に向けての取り組み（例えば、授業方法の改善、学生による授業評価、教員による授業自己評価の実施率を高める等）のための学外の研修会や教育関連学会への参加等の各種方法についても検討する。

さらには各 EP 担当科目や SDGs 教育科目の魅力ある授業づくりのための改善（授業方法・授業内容・体制・施設・設備等の改善・充実と学外の研究会・ワークショップへの参加によるスキルアップ等）をより一層図るとともに、科目の精選に関する考察を深める。

さらに、文科省中教審で計画的展開が要請されている「高大連携・接続」の一環として、本学が進めている併設高校との高大連携授業では教育院が担当する部分が多く、関係教員との FD 活動を通じて、本学にとっても高校（生）にとっても魅力ある授業づくりを検討する。

(10) 国際人間学研究科

1) FD 活動の目標

- ① 構成員の専門分野が社会科学・人文科学に跨る多彩な学問領域であり、学生も様々な国籍・年齢層にわたるため、研究会・発表会などを通じて互いの専門分野についての理解を深め、多角的視点から専攻を越えた教育・研究指導を行える環境を育む。
- ② 専門力に加えて、高度な俯瞰力や豊かな人間性を備えたリーダー人材の育成を目指した「持続社会創成教育プログラム」を活用し、多様な学生の目標に応じた教育を実践する。
- ③ 学外の研究者や地域との交流による研究・教育能力の向上を図りつつ、学生の要望や意見もくみ上げながら魅力ある授業をつくりあげていく。
- ④ 様々な文化背景をもつ学生が所属することから、著作権・肖像権・個人情報保護等、研究倫

理に関わる事項について、まず教員が正確な知識を身につけ、これらの侵害がないよう指導を徹底する。

2) FD 活動の計画

- ①これまで継続的に実施してきた研究科の所属教員による研究報告会（年 2 回）、学生とその指導教授による研究報告会（年 2 回）を開催し、報告誌『Glocal』を刊行するとともに、教員間・学生間の相互理解や交流を深める。
- ②学外から専門家・識者等を招き、シンポジウムや講演会などの形態をとりながら、教育・研究の向上に資する知識・情報・ノウハウの吸収に努める。
- ③国際関係学、言語文化、心理学、歴史学・地理学の各分野、また、それらを横断的につないだ分野でのシンポジウムや講演会の実施を促進し、その成果を『魅力ある授業づくり』に活かしていく。
- ④国際人間学研究所が推進するプロジェクトと連携し、学生の研究活動を支援するとともに、研究科としての社会連携・地域連携をさらに推進する。
- ⑤上記の計画を実現するために FD 活動への積極的な参加を促す努力を継続し、研究科全体の FD 意識を向上させる。

4. 2023 年度の FD 活動の取り組み

4. 1 全学の取り組み

2023 年度の全学としての取り組みは、大学企画室高等教育推進部の Web サイトに詳細が掲載されている (<https://www.chubu.ac.jp/about/university-activities/university-education/>)。主な取り組みは、(1) 教員による教員活動重点目標の設定および自己評価 (2) 授業改善の取り組み (3) FD フォーラム・講演会 (4) キャリアアッププログラム・FD に関する研修会等 (5) FD カフェ (6) 出版物 (7) 教育活動顕彰制度 (8) 中部大学『魅力ある授業づくり』プログラムの実施 (9) FD オンデマンド講義 (全国私立大学 FD 連携フォーラム実践的 FD プログラム) の提供 (10) FD・SD 研修会 (11) SD カフェ等である。

なお、これらの現状と評価を記述する。

(1) 教員による教員活動重点目標の設定および自己評価

近年の内部質保証の観点から、教育のみならず研究、社会貢献、学内行政等についても評価・点検の実施、および改善向上が教員には求められている。このことを反映して、「教員活動重点目標・自己評価シート」では上記の 4 つの責務（教育・研究・社会貢献・学内行政）について、年度初めに各教員が教員活動重点目標を設定し、年度末に自己評価を行っている。2018 年度から大学設置基準上で教員と区分される助手（教育・研究の補助を主たる職務とする）も対象とし、これを機に全学部共通のレイアウトに変更となった。2023 年度の目標設定者は在籍教員の該当者 511 人中 495 人（未提出者 16 人は、欠勤等により提出できない者）、自己評価提出者は目標設定者 495 人中 486 人（未提出者 9 人は退職、欠勤等により提出できない者）であり、ほぼ全ての教員が提出した。

(2) 授業改善の取り組み

『魅力ある授業づくり』のための主な取り組みとして、以下の 7 つに取り組んできた。

1) Web による「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」

「授業評価」の学生の回答率は、春学期 37.4%（昨年度は 38.5%）、秋学期 31.4%（昨年度は 30.1%）であった。自由記述においては、春学期 3,568 件（3,212 件）、秋学期 2,358 件

(2,179 件)であった。学生の回答率については、コロナ禍が始まった 2020 年度以降漸減しているものの、2019 年度以前と比べると比較的高い値を維持している。

一方、教員の自己評価回答率は、春学期 64.9% (昨年度 65.4%)、秋学期 64.1% (昨年度 65.5%) であった。さらに、コメント率は、春学期 64.0 % (昨年度 64.4%)、秋学期 62.6 % (昨年度 65.7%) であった。昨年度 (2022 年度) は教職員に対する積極的な呼びかけが奏功していずれの率も増加したが、それに比べて 2023 年度はわずかながら減少となった。回答率およびコメント率の増加に向けた対策が継続して必要である。

2) 携帯電話を活用したクリッカーシステムの提供 (授業改善アンケートシステム)

携帯電話やスマートフォンを活用して、授業中に教員がネット環境を使える場所であれば、学生の反応を瞬時に把握できる本学独自のクリッカーシステムである「Cumoc (キューモ: Chubu University Mobile Clicker)」を導入して 14 年目となる。2011 年 7 月には、利用の研修を行う目的で「CumocL」を整備し、同システムを活用して 2013 年 4 月に一般的なアンケートシステムとして学内に提供を開始した。また、2017 年度より、それぞれの設問間のクロス集計が可能になるよう改善した。

なお、「授業改善アンケート (Cumoc の利用を含む)」は、春学期 127 件、秋学期 67 件で合計 194 件 (2022 年度 192 件) の利用であった。オンライン授業が浸透して以降、多様な ICT ツールを利用できる中で当該アンケートシステムもそれらのうちの一つとして選択されていることが分かる。

3) 授業改善ビデオ撮影支援制度

授業改善ビデオ撮影支援制度は、授業担当者からの希望による振り返りのための教育支援として撮影提供しており、2023 年度は 13 件 (2022 年度 5 件) であった。

4) 授業のオープン化制度

授業担当者に申し出ること、他の教員が授業を参観できるシステムであり、後述の「全学公開授業」「授業サロン」もこの趣旨を基に実施している。

5) 全学公開授業

2023 年度は「全学公開授業」を 3 件 (2022 年度の開催はなし) 実施し、28 人の教職員の参加があった。この公開授業は実施者および見学者双方に授業改善のヒントが得られる取り組みである。

6) 授業サロン

「授業サロン」では、専門が異なる学部を越えた 5 人の教員による授業見学とピアコンサルティングが行われる。2023 年度は、春学期、秋学期にそれぞれ 1 グループの実施であった。メンバー構成として、若手と中堅教員に加えて教育活動優秀賞の受賞者を迎え入れる方法を採った。また、当該年度より、フリーアナウンサーの稲葉寿美客員教授にも参加してもらい、特に話し方についてのアドバイスを頂くこととした。

7) CU ルーブリックライブラリ

教育の質保証を目指す上での成績評価方法の 1 つであるルーブリックの「蓄積」から「共有」、そして「作成支援」に繋げることを目的として、2016 年 3 月に運用を始めた。2023 年

度末時点で非公開を含めて 42 件（2022 年度末時点 42 件）の登録があった。

(3) FD・SD フォーラム・講演会

以下の 2 件の講演会を本学入学センターとの共催で開催した。

1) 第 60 回 FD・SD 講演会

テーマ：「2024 年度学生募集に向けて」※理系学部を中心とした内容

日 時：2023 年 6 月 15 日（木）17 時 10 分～18 時 40 分

講 師：近藤 治 （学）河合塾 教育研究開発本部 顧問

小林 リサ （株）KEI アドバンス 名古屋営業グループ リーダー

参加人数：144 名

2) 第 61 回 FD・SD 講演会

テーマ：「2024 年度学生募集に向けて」※文系学部を中心とした内容

日 時：2023 年 6 月 19 日（月）17 時 10 分～18 時 40 分

講 師：近藤 治 （学）河合塾 教育研究開発本部 顧問

小林 リサ （株）KEI アドバンス 名古屋営業グループ リーダー

参加人数：118 名

*1)、2)ともに入学センターとの共催

(4) キャリアアッププログラム・FD に関連する研修会等

2009 年度から開催してきた「教員キャリアアッププログラム」は、教員の授業スキルを含めた「授業改善」に関連したプログラムはもとより、「ICT（情報技術）」や「学生への対応」など幅広い目的をもつワークショップである。教職協同のプログラムとして、職員も参加し実施してきた現状を踏まえ、2017 年度から、「キャリアアッププログラム」と名称を変更し実施している。

2023 年度は 9 回開催した（2022 年度 11 回）。大学企画室客員教授による「授業技術（話し方）」（4 回）、「授業デザイン」（2 回）、「授業技術」「学生への対応」（各 1 回）に関するプログラムをはじめ、学内講師を招いた「学生への対応」に関するプログラム（1 回）を実施した。開催方法については、講師の意向や実施内容を考慮して、対面およびライブ発信形式を柔軟に使い分けた。後者のライブ発信の場合にも、グループ討論・作業を積極的に採り入れることにより、参加者間の交流やプログラム内容の習得を対面時とほぼ変わらないレベルで行えるよう企画した。

また、今年度も新任教員説明会は実施されず、本学 FD 活動の概要を資料送付にて説明している。

(5) FD カフェ

FD カフェは、教職員による自由な意見交換の場である。大学教育に関するさまざまなテーマ、学生と直面している必要な知識などの実践的なテーマに関して自由に意見を交わすことで情報やスキルを共有する場を提供することを目的として開催されている。2023 年度は春および秋学期にそれぞれ 1 回（2022 年度もそれぞれ 1 回開催）開催した。春学期には、新規採用者向けのスタートアップ企画を行った。また秋学期には、これまでに教育活動金虎賞や優秀賞を多く輩出している工学部応用化学学科にスポットを当て、当該学科の教員から授業づくりの方法やグッドプラクティスの事例をパネル討論形式で共有する企画を実施した。

(6) 出版物

『教育・研究活動に関する実態資料』及び『中部大学教育研究』を刊行している。前者は、様々な基礎データを集約し、学内各種制度や対外的な申請や審査の基礎資料として、また大学の情報公開のための基礎資料として活用されている。後者は、1979年より刊行されてきた『教育資料』を充実させ、新時代の大学教育の理念・手法・改善策などを論じ合う場を提供するものとして、教育改善・質的向上に役立てることを目的に2001年から刊行している。教員の情報共有の場ともなっており、特に研究論稿は教育研究の分野でも数多く引用される実績を有している。『中部大学教育研究』No.17から論文の投稿区分を見直し、要約・キーワード・英文タイトル等の追加、およびレイアウトの変更と、編集・投稿要項を改訂した。2023年度は、No.23として一般投稿10編と、FD活動評価点検委員会が2018年度から2022年度の5年間にわたる全学的なFD活動の取り組みをまとめた報告書「中部大学『魅力ある授業づくり』5年間の取り組みを振り返ってー2018年度から2022年度の実践と振り返りー」を掲載発行した。

(7) 教育活動顕彰制度

2008年度より学部における評価項目の重みを増加し、また個人だけでなく団体、グループに対しても表彰できる特別賞を取り入れた「教育活動顕彰制度」を導入し、毎年前年度の教育活動について表彰している。2017年度に、中部大学教育活動顕彰制度における教育活動優秀賞の4回目の受賞者に対して「教育活動金虎賞（きんとらしょう）」を制定し、2022年度受賞者が2人あった。その金虎賞を含め、2022年度の「教育活動優秀賞」は16人（2021年度16人）、「教育活動特別賞」は1人が受賞した。実施要項、選考総評等はWebで公開されている。

(8) 『魅力ある授業づくり』プログラム

すべての教員（特に教育歴の少ない教員や新たに本学に赴任する教員）が持続的に教育力の向上を目指すことを奨励し、FDプログラムへの積極的な参加を奨励するために、FD・SD委員会が主催しているFDプログラムを活用して規定の要件を満たしたものに対して、本プログラムの修了証を授与している。修了の要件については、リーフレットやWeb上で公開されており、3年間の間に授業サロンまたは全学公開授業実施を必須としたポイント制をとっている。2023年度には3人の教員に修了証を授与した。本学の特徴あるFDプログラムへのさらなる積極的な参加を促すきっかけになることが期待される。

(9) FD オンデマンド講義（全国私立大学FD連携フォーラム実践的FDプログラム）

FD オンデマンド講義は、本学が加盟している全国私立大学FD連携フォーラムが運営している実践的FDプログラムを活用したものである。同プログラムは、毎年4月に視聴希望者を募り、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察できる知識、技能、態度、アクティブ・ラーニングを実践する能力を修得するプログラムである。2023年度は個人14人、3組織（2022年度個人16人、2組織）が受講した。引き続き、啓発の機会として活用されることが期待される。

(10) FD・SD研修会

2017年4月1日に施行された大学設置基準において、全ての大学にSD(Staff Development)が義務付けられたことを受けて、FD・SD研修会をSD研修の機会として位置づけ、全教職

員を対象に以下の研修会を実施した。

テ ー マ：『大学 BCP と危機管理の課題』

日 時：2024 年 1 月 29 日（月）15 時 30 分～17 時 00 分 オンライン開催

講 師：福田 充 日本大学 危機管理学部 教授、同 大学院危機管理学研究科 教授

オンデマンド配信期間：2024 年 2 月 5 日（月）～2 月 16 日（金）

専任教職員の参加状況は、「オンラインでの当日参加」が 234 人、「オンデマンドでの後日参加」が 90 人、参加率は 39%であった。

(11) SD カフェ

SD 研修の一環として、気軽に参加でき、知識・技能の習得だけでなく教職員・組織間の交流を図ることを目指した「SD カフェ」を新たに企画し開催した。

テ ー マ：『緊急時の応急手当を学ぼう』

日 時：2024 年 2 月 20 日（火）14 時 00 分～15 時 40 分 対面開催

講 師：北辻 耕司 生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 講師

伊藤 基樹 臨地実習推進部 救急救命教育・実習センター 助手

参加人数：26 名

4. 2 学部・研究科での取り組み

(1) 工学部・工学研究科

工学部の教員の『魅力ある授業づくり』に関する意識およびスキルを向上させるための FD 活動を推進する、という目標に基づき、多くの教員が取り組みを行った。

- 1) 2023 年 6 月 21 日の工学部・理工学部教授会にてハラスメント防止 DVD を視聴した。
- 2) 「中部大学教育活動顕彰制度 受賞者による講演会」を 2023 年 11 月 15 日、12 月 20 日、2024 年 1 月 17 日の 3 回にわたり、工学部ファカルティルーム（7 号館 3 階）から Zoom 配信とオンデマンド配信を行った。

(2) 経営情報学部・経営情報学研究科

2023 年度は、『魅力ある授業づくり』を行い、学部・大学院教育の質を向上させるための様々な議論を主任会議，学部教務委員会，資格委員会などに行ったほか，学部構成員全員を対象とする FD 関連行事を数度実施し，多くの教員の参加をえた。2023 年度は初年次教育の充実，授業における ICT 活用の 2 つを主なテーマとし，その他，教員の教育能力・資質向上のための FD 講演会を実施している。主な活動実績は以下の通りである。

1) 初年次教育の内容ならびに指導の向上に向けて

初年次教育の内容ならびに指導の向上に向けて，2 回の FD 関連行事を実施したほか，主任会議の場で，スタートアップセミナー不合格者についての意見交換を行うなど，新入生への学生指導体制の確認・強化を行った。

①入学前教育プログラムに関する FD 活動（報告会）の実施

2023 年 5 月 24 日（水）15 時 20 分から学部全教員を対象に入学前教育実施報告会を実施し，その年の新入生の特徴や課題などについて共有した。同時に，スタートアップセミナー

担当教員に入学前教育の個人データを配布し、学生指導に活用することとした。

②スタートアップセミナー意見交換会の実施

2023年7月19日（水）の16時より、スタートアップセミナー担当者を対象に意見交換会を実施した。この会では、今年度のスタートアップセミナーの講義内容や、今後の指導内容について意見交換を行うとともに、翌年度の取り組みなどについての議論を行った。

2) 授業における ICT 活用

教員の ICT 活用能力向上のため、2回の ICT 講習会を実施した。

- ・2023年5月17日（水）には新規に導入された IT 機器(BIG PAD)の操作方法・活用法についての講習会を実施した。
- ・2024年3月14日（木）には授業でのロイロノートの活用について検討するため、具体的な活用方法と活用事例についてのワークショップを実施した。

3) FD 講演会の実施

教員の教育能力・資質の向上のため、2回の FD 講演会を実施した。

- ・2023年9月27日（水）15時20分より、「Chat-GPT を活用した教育と研究の効率化」をテーマに宿澤直正（宿澤経営情報事務所代表）様をお招きして Chat-GPT を教育現場でどう活用するかについての講演会を実施した。
- ・2024年1月17日（水）18時より「合理的な配慮が必要な学生への対応」をテーマに学生サポートセンターの可児様に講演いただくことで、本学の個別ケースとあわせて合理的配慮とは何かについて理解を深めた。

(3) 国際関係学部

本学部が重点を置く以下の項目に関して、「実施方法の改善、留意点」などに関する情報共有を促進していくことで、『魅力ある授業づくり』に資する内容の FD 活動を行った。

- 1) 学生と協働して創出する新しいスタイルの授業「ハイブリット・プロジェクト」の実施を通じて、学生の最新学修ニーズを確認した後、学部構成員による情報共有を促進し、他の授業科目にフィードバックしたほか、授業内容の改善によって専任教員が担当する授業の一層の質の向上を推進した。ハイブリッド A や C では複数の教員が科目に参加し、学生とともに多様な視点から議論を行った。ハイブリッド B ではシンガポール国立大学とのオンライン授業を通じて英語で SDGs の理解を図った。ハイブリッド D では従来の英語、中国語、韓国語に加え、ロシア語やトルコ語の学習を通じて文化の多様性の理解に努めた。
- 2) 低学年向けの演習系科目（スタートアップセミナー、国際基礎演習、国際応用演習 A・B）に関しては、学年・学期ごとに「コーディネーター」としてまとめ役を決め、授業の事前と事後のフォローアップを担当者全員で行い、学生の学習状況の把握に努めるとともに、成績評価基準の統一および改善点を担当者間で共有し、次年度に引き継げるよう整理した。またコーディネーターを持ち回りにすることで、すべての教員が科目内容の改善や質の向上に参与するようにした。
- 3) 本学部が多ディシプリンの専門領域を持つことに鑑み、「卒論閲覧会」を開催し、教員間に共通の意識を醸成した。また、2022年度に制作した卒論評価ルーブリック（試行版）につき、卒業研究担当者がその有効性について検討し、指導法の改善に活用した。
- 4) 本学が推進する SDGs にかかる学部の講演会、研究会を実施したことで「授業外の学びの機会」を提供でき、教員の知見を深めることができた。
- 5) 学部企画としてアカデミックイベントを開催し、授業外での学生の生の声を集めることで、各種指導法の改善に役立つ情報を得ることができ、随時教授会でも報告した。

- 6) 学部学科ホームページに教員の専門分野やゼミナールなどに関する情報を掲載し、外部に対する発信力を高めるとともに、学部で扱う学問分野や研究方法論の多様性を教員間で再認識し、学部教育のあり方を考えるきっかけとした。

(4) 人文学部

- 1) 2023 年度の人文学部 FD・SD 委員会（2023 年 5・11 月・2024 年 3 月）では、同年度の人文学部 FD 活動の内容を中心に、2022 年度 FD 活動評価点検・実績報告書、2023 年度人文学部の秋学期の授業評価、2024 年度 FD 活動推進計画書などを検討した。また各学科では、それぞれ学科に沿った FD 活動を積極的に企画して取り組んだ。
- 2) 2023 年度春学期では「セクハラ防止講演会」に加えて、超伝導・持続可能エネルギー研究センター所属教員による講演会・ワークショップ、秋学期では人文学部の教員による講演会を開催した。高校との連携活動を紹介しながら、背景にある「Society 5.0 に向けた人材育成」の政策を踏まえて、中部大学での授業開発について考え意見交換を行った。また秋学期は、教育活動優秀賞を受賞された人文学部の教員による遠隔授業上の工夫を含めた数々の具体的な授業づくりに関する報告から今後の遠隔授業の授業づくりの参考となるご示唆をいただいた。最後に意見を交えることができ、講演内容について全体で理解を深めた。

(5) 応用生物学部・応用生物学研究科

2023 年度は主に以下の内容について、学部 FD 推進委員会、教授会、学科・専攻会議で FD 活動に取り組んだ。

1) 学部 FD 推進委員会の開催（5 回）

適時、委員会を開催し、主に FD 活動推進計画案、FD 活動評価点検報告書案の作成と活動の推進を行なった。

①2022 年度学部 FD 活動の総括

②2023 年度教育活動顕彰制度優秀賞の学部評価項目・ポイント、自他による総合評価法の点検

③FD 講演会の計画、運営

④2024 年度 FD 推進計画案を作成

2) 学科・専攻単位での FD 推進（適時）

学科及び専攻に固有の FD 課題を抽出し、検討を行った。特に、単位取得数不足、学生生活に適応できていない学生を早期に把握し、教員間で情報共有を行い、対策を行った。

3) 学部 FD 講演会（年 1 回）

個々の教員の多くは日々『魅力ある授業づくり』に取り組んでいる。一方、他の教員の取り組みを知る機会は少ない。そこで、特色ある講義・研究を行っている教員にその取り組みについて講演してもらい、情報共有を行った。

①講演タイトル「食品プラントのこれまでとこれから」（2023 年 12 月 20 日）

講演者：藤原孝之（応用生物学部・食品栄養科学科・教授）

本学部の特色である食品プラントの管理者となっている藤原先生に、食品プラントの特徴やこれまでの活用方法を講演いただいた。あわせて、今後の目指すべき方向と、教育にどのように活用していくのかを提案いただいた。質疑応答では、これまで知らなかった食品プラントについて興味を持ったことや、導入時とは異なる現状の改善について意見交換を行った。

(6) 生命健康科学部・生命健康科学研究科

2023年10月18日(水)13:35より、生命健康科学部第1回FD研修会「資格試験対策の取り組みⅡ」をオンライン(Zoom)にて開催した。資格取得に向けた教育実践についての情報共有という趣旨から全学教職員を対象とし、学部参加者89名、他部署からの参加者は4名であった。学部の3学科の国家試験の特徴と対策、低学年時からの学習指導、3-4年次での国家試験対策の詳細、試験問題や学生の成績の分析とその結果に基づいた学生指導の実際、成績不振学生への対応、など、資格毎に特色のある実践例が数多く提供された。個々の学科の対策をまとめて知ることができる有益な機会が提供できた。

2024年2月29日(木)13:35より、生命健康科学部第2回FD研修会を対面方式にて開催した。「チーム医療に貢献できる人材の育成」を掲げる学部として、学生の「チームで働く力」を育む試みとして、今年度臨床工学科で学生向けに開催された「チームビルディング・ゼミ」の紹介を、ゼミを担当したファシリテータの方をお願いした。学部参加者は70名、他部署からの参加者は2名であった。チームビルディングにより関係性の質を高めることが、学びの動機づけに繋がるという実例や理論的背景が説明された。活発な質疑応答があり、体験ワークなどを通じて教員自身が実践する際の参考となる手法や考え方を学ぶことができた。過去の学部FD活動では授業改善を目的とした研修会が多く、今回「チームビルディング」という新しいテーマで情報を提供できたことは有意義であった。

(7) 現代教育学部・教育学研究科

FD&SD委員会の取り組みは、主に3つある。

一つは、学部のFD・SDの企画と実施である。これについては、子安委員長によるAIの利用に関する報告、坂野氏による近年の小中学校の実践動向、GRANT氏によるイギリスの子育て支援の現状についての講演会を開催した。共催で首都師範大学との交流会も開催した。

二つは、現代教育学部の紀要の編集・発行、現代教育研究所紀要の編集と発行をそれぞれ予定通り進めた。

三つは、FD・SDの研究的・実践的基盤となる図書の整備についても物価高騰の中縮減せざるを得なかったが着実に進めた。

(8) 理工学部

理工学部の教員の「魅力ある授業づくり」に関する意識およびスキルを向上させるためのFD活動を推進する、という目標に基づき、多くの教員が取り組みを行った。

- 1) 2023年6月21日の工学部・理工学部教授会にてハラスメント防止DVDを視聴した。
- 2) 「中部大学教育活動顕彰制度 受賞者による講演会」を2023年11月15日、12月20日、2024年1月17日の3回にわたり、工学部ファカルティルーム(7号館3階)からZoom配信とオンデマンド配信を行った。

(9) 人間力創成教育院

人間力創成教育院では、EP内でFD活動で全学共通教育科目の魅力ある授業づくりのために、授業の教授方法、内容、体制、施設、設備の改善と充実、さらに学外での研究会やワークショップへの参加によるスキルアップを実施した。また、進展が著しいAIの活用について、本院主催のFDにて「研究・教育ツールとしての生成型AI(ChatGPT等)の活用について」を開催し情報共有した。「高大連携・接続」の一環として本学の併設高校との高大連携科目に関しては、併設高校と意見交換や課題検討を行い、高校生にとっても魅力的な授業づくりについて議論し

た。専門職 EP（教職課程）においては、教職を目指す学生の意欲を高めるために、現職の工業高校校長による講演会を開催し、教員 4 名と 4 年生 46 名が参加した。さらに、教諭として働く卒業生 2 名による「先輩のお話を聴く会」を実施し、教員 4 名と 2 年生 100 名が参加した。これにより、教職の実際に対する理解を深める機会となった。

(10) 国際人間学研究科

1) 講演会・シンポジウム等の開催

国際関係学専攻の主催により、上映会と講演会からなるセミナー「正義と平和を求めて—アフリカ系女性議員の闘いから学ぶこと」（2023 年 11 月 29 日）を開催し、教育・研究力の向上に資する知識・情報・ノウハウの吸収に努めた。

2) 研究発表会の開催

これまで継続して実施してきた教員研究会（発表者計 4 名）と院生研究発表会「院生の力」（発表者計 6 名、コメンテーター計 6 名）をそれぞれ年 2 回開催し、教員間・学生間の相互理解や交流を深めるとともに、教員の教育・研究力の向上に努めた。

3) 報告書等の発行

国際人間学研究科のアカデミック広報誌『GLOCAL』（Vol.23、Vol.24）と院生の研究誌『国際人間学フォーラム』Vol.19 の編集・発行に教員と院生が協働で取り組み、教員の教育・研究力の向上に資するとともに、院生への実践的な教育の場が提供されている。

4. 3 2023 年度の FD 活動の取り組みの傾向

2023 年度の本学の FD 活動件数を、目的別、対象別、および内容形式別にまとめたものが次の 3 つの表である。なお、2013 年度以降、「会議」や「打ち合わせ」は当該データから除外している。

2023 年度の活動件数は表 2.1 にて 159 件、また表 2.2 にて 121 件であった。ここ数年の範囲では比較的少ない件数となったものの、依然として全学のみならず各学部や学科での活動が活発に為されている。なお、減少の理由としては、コロナ禍において様々な切り口で FD 活動の対象とされたオンライン授業の手法やスキルが、教職員間でかなりの程度浸透したことが考えられる。一方で、表 2.2 に示すように、学生を含む活動件数は 50 件と昨年度および一昨年度の件数を維持している。教職員と学生が一丸となった FD 活動が定着していることが伺われる。

表 2.1 目的別にみた FD 活動（件数）

目的	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度
授業・教授法の改善	73	98	72	81
教員資質向上のための研究交流	56	70	73	50
FD 活動企画・運営	30	39	35	11
	159	207	180	142

表 2.2 FD 活動の対象別にみた FD 活動（件数）

対象	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度
全学対象	56	59	56	49
学部・研究科対象	28	23	32	19
学科・教育科対象	37	65	43	50
	121	147	131	118
* 表 2.2 のうち、非常勤講師を含む	36	40	47	47
* 表 2.2 のうち、学生を含む	50	58	48	29

表 2.3-1 形式別にみた FD 活動（件数）～2021 年度まで

内容形式	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度
研修会・懇談会	—	—	24	37
講演・報告会	—	—	60	27
ワークショップ・セミナー	—	—	23	37
制度・システムなど	—	—	28	25
			135	126

表 2.3-2 形式別にみた FD 活動（件数）～2022 年度から

内容形式	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度
講演・報告会形式	61	65	—	—
ワークショップ形式	39	38	—	—
制度・システムなど	23	41	—	—
	123	144		

※ 上記の 3 表の合計件数は、重複項目があるため、一致しない。

5. FD 活動に関する学外との連携

5. 1 全国私立大学 FD 連携フォーラムでの活動

全国私立大学 FD 連携フォーラム（略称 JPFF）は、中規模以上の私立大学間での FD 分野における連携を目的として 2008 年に発足された。本学は 2012 年に JPFF に加盟し、その後 2020 年 6 月から地域担当幹事校、さらに 2021 年 6 月からは代表幹事校を担当した。2023 年度は、以下の会議、シンポジウムに参加した。

1) 2023 年度 幹事校・総会

日時：2023 年 6 月 17 日（土）12：00～14：00

場所：立教大学 池袋キャンパス

形式：対面開催

2) 2023 年度 シンポジウム

日時：2023 年 6 月 17 日（土）14：00～16：40

場所：立教大学 池袋キャンパス

形式：対面とオンラインによるハイブリッド開催

テーマ：これまでの FD とこれからの FD

－ 2040 年代を見据えた課題と展望 －

3) 2023 年度 ミーティング・懇談会

日時：2024 年 1 月 25 日（木）13：00～16：00

形式：オンライン開催

6. FD 活動に関する課題と今後の計画

以下の 2 点に注目して、2023 年度における課題と今後の計画をまとめた。

・新任教員向け FD プログラムの開始

2022 年度の課題として記載した、FD 行事の参加率の向上に向けて、新任教員向け FD プログラムを新たに開始することとした。2023 年度の FD 活動 WG および FD・SD 委員会にて議論を行い、その実施要項を制定し、2024 年度より運営開始の運びとなった。FD 活動への参加率向上だけでなく、若手教員の授業スキルの向上も視野に入れ、全学的な FD 活動のさらなる発展を狙いとしている。この運営によって、2022 年度には十分な参加者数が得られないことがあった全学公開授業や授業サロンなどの FD 活動の活性化をはかる。

・専任教職員および非常勤講師が一体となった FD 活動の取組みについて

2022 年度には学生による授業評価に対する回答入力に関して、非常勤講師を含む教職員に対して例年以上に丁寧な要請を行った。それを受けて、全体的な回答率は増加し、一定の成果を得ることはできた。しかし、上述したように [4.1. の (2)]、2023 年度には回答率やコメント率は前年度をわずかながら下回る結果となった。引き続き、授業評価の趣旨の周知の徹底と、その伝達方法の工夫を通して、非常勤講師のみならず専任教員による回答率を上げることが必要である。